

ダニ媒介感染症について

ダニ媒介感染症とは

病原体を保有するダニに咬まれることによって起こる感染症のことです。

人が野外作業や農作業、レジャー等で、これらのダニの生息場所に立ち入ると、ダニに咬まれることがあり、そのダニがウイルスや細菌などを保有している場合、咬まれた人が病気を発症することがあります。

ダニ媒介感染症のなかには、いくつかの感染症がありますが、最近の発生状況下では、①重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、②日本紅斑熱、③エゾウイルス感染症などが注目されています。

①重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、ブニヤウイルス科フレボウイルス属の重症熱性血小板減少症候群（Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS）ウイルスを保有するダニに咬まれることで感染します。症状は、高熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）がみられ、ときに、頭痛、筋肉痛、意識障害などを伴います。治療としては対症療法となります。

②日本紅斑熱は、病原体（リケッチア的一种 リケッチア・ジャポニカ（*Rickettsia japonica*））を保有するダニに咬まれることで感染します。症状は、高熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感がみられ、痒みや痛みのない全身に広がる皮膚の斑状発赤がみられます。治療としては早期に適切な抗菌薬（テトラサイクリン系）を投与することが重要となります。

③エゾウイルス感染症は、近年、報告されたダニ媒介性発熱性疾患です。エゾウイルス

（Yezo virus）は、2020 年 1 月北海道において、ダニと推定される虫による咬まれた後に発熱と下肢痛を主訴に受診した患者から検出された新規のウイルスです。まだ詳細については不明な点が多いことから、国において、引き続き、調査研究等を行っています。



【吸血前】

【吸血後】

ダニ媒介感染症の発生状況

①重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、2013 年に国内で初報告されて以降、報告数は年々増加傾向にあります。発生地域について、従来は西日本に限局していましたが、2020 年 3 月に静岡県において東日本で初めて確認されました。また、三重県内においては、2015 年に初報告があつて以降、毎年約数件の報告があります。（図 1）

②日本紅斑熱の報告数は、近年増加傾向にあり、2021 年の国内での発生報告数は過去最多（480 件（速報値））となりました。従来は、西日本を中心として報告がありましたが、その発生地域の広がりも確認されています。また、三重県内においては、全国的にも比較的報告数の多い地域となり、とくに伊勢志摩地方を中心に毎年約 40 件程度の報告があります。（図 2）



図1 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）発生状況



図2 日本紅斑熱発生状況

ダニ媒介感染症の予防

ダニの活動が盛んな春から秋（とくに8月～9月）にかけては、ダニに咬まれる危険性が高まります。草むらや藪などに入る場合には、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴、帽子、手袋を着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。

虫除け剤の中には服の上から用いるタイプがあり、補助的な効果があると言われています。また、屋外活動後は入浴し、ダニに咬まれていないか確認して下さい。

マダニ媒介感染症に注意しましょう！

日本紅斑熱

【症状】 高熱・頭痛・筋肉痛・倦怠感
痒みや痛みのない全身に広がる皮膚の斑状発赤

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

【症状】 高熱・消化器症状（嘔吐・下痢・腹痛・下血）・頭痛・筋肉痛・意識障害

↑吸血前の成虫 約1mm

↑吸血後の成虫 約5mm

<野山に立ち入る際の注意事項（マダニに咬まれないことが大切！）>

- つばの付いた帽子、長袖、長ズボン、丈の長い長靴などを着用し、肌の露出を避けましょう。
- 「イカリジン」や「ディート」という成分を含む虫除け剤に補助的な効果があると言われています。長く野山に立ち入る際は、使用上の注意に従い使用しましょう。
- 野山に立ち上った後は、家の外で服や体をはたき、マダニを落としましょう。
- 野山に立ち上った衣服は、すぐに洗濯するか、ビニール袋等に入れ、密封し保管しましょう。
- 出来るだけ早くシャワーを浴びましょう。その際、マダニに咬まれていないか全身（特に頭髪部、首、脇の下、脇腹、足の付け根、膝の裏等）を観察しましょう。

<マダニに咬まれた時の注意事項>

- マダニに咬まれたときは、マダニをつぶさないように頭部をピンセットではさんで、まっすぐ引き抜いてください。自分でとれないときや、マダニの一部が皮膚に残った時は最寄りの医療機関に相談してください。
- 受傷後1週間程度は体調の変化に注意してください。上記の症状があれば早急に医療機関を受診してください。

<マダニ媒介感染症>

- 野山には原虫や細菌、ウイルスなどの病原微生物を保有するマダニ（数パーセントが保有すると言われています）が生息しています。マダニに咬まれた後「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群」という疾患を発症する事があります。
- 三重県では伊勢志摩地方を中心に年間40件程度の日本紅斑熱症例が報告されています。また2015年以降は重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の患者も発生しています。
- これらの疾患の多くはマダニの活動時期に一致し、春から秋にかけて発生します。マダニに咬まれたことに気付かず発症する方もいます。
- マダニに咬まれても、これらの疾患を発症する可能性は数パーセントに満たないと考えられますが、流行時期に上記の症状があれば、発症した可能性があります。医療機関を受診し、医師にマダニに咬まれた可能性があることを告げましょう。
- 通常、人から人に感染することはありません。

◎問い合わせ先（詳細については下記連絡先にお問い合わせください）

所属名	電話番号	所属名	電話番号
桑名保健所	0594-24-3625	伊賀保健所	0595-24-8045
鈴鹿保健所	059-382-8672	尾鷲保健所	0597-23-3454
津保健所	健康増進課 059-223-5184	龍野保健所	0597-89-6115
松阪保健所	0598-50-0531	四日市市保健所	保健予防課 059-352-0595
伊勢保健所	0596-27-5137	三重県医療保健部	感染症対策課 059-224-2712

※協力：伊勢赤十字病院

✔ 三重県

【予防啓発リーフレット：三重県作成】

ダニ咬まれた場合

ダニ類の多くは、皮膚にしっかりと口器を突き刺し、長時間（数日から、長いものは10日間以上）吸血しますが、咬まれたことに気がつかない場合も多いと言われています。吸血中のダニに気が付いた際、無理に引き抜こうとするとダニの一部が皮膚内に残って化膿したり、ダニの体液を逆流させてしまったりするおそれがあるので、医療機関で処置をしてもらってください。また、ダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。

参考文献：厚生労働省ホームページ

厚生労働省事務連絡（令和3年9月22日）

—編集委員会から—

みえ保環研ニュースについて、ご意見・ご質問等がございましたら下記までお寄せください。

三重県保健環境研究所

〒512-1211 三重県四日市市桜町3684-11 TEL 059-329-3800 FAX 059-329-3004

E-メールアドレス hokan@pref.mie.lg.jp ホームページ <https://www.pref.mie.lg.jp/hokan/hp/index.htm>

三重県感染症情報センターホームページ <https://www.kenkou.pref.mie.jp/>